

医学博士名倉重雄君の「所謂骨端炎の研究」に対する授賞審査要旨

今世紀の始めレントゲン線が骨疾患の診断に應用されるようになってから主として發育期に發生する一群約二〇の近似する局所性骨疾患が相ついで発見された。

一九〇三年に Osgood (米) と Schlatter (瑞西) とによつて報告された脛骨結節の疾患、一九〇八年に Köhler (独) の報告した小兒の舟状骨疾患、一九〇九年と一九一〇年に Legg (米) Calvé (仏) Berthes (独) らの報告した大腿骨頭の疾患、一九一〇年に Krenböck の報告した月様骨疾患、一九二〇年に Köhler の報告した跗骨疾患などが其の代表的なものとして知られてゐる。

此等の疾患は其の病理發生及び本態に關して専ら外科学者によつて熱心な追究が試みられ、骨端の炎症であるという説、骨軟骨炎であるという説、血管閉塞説、骨壞死原發説、その他の仮説が提唱されたのであるが真相の闡明されるに至つておらなかつた。

この種の疾患群の研究に際して著者は前世紀の末に Franz König によつて Osteochondritis dissecans (離断性骨軟骨炎) と命名された骨疾患の組織検査から出發し、該疾患が骨軟骨炎でなく、血管閉塞を一次変化とする病變でもなく、始め重篤でない骨組織断裂が發生し、そこに軟骨による補填が起り、この軟骨は enchondrale Ossifikation (軟骨内骨化) の形式で骨化するが其の修復の進む途中に機能的機械的影響が加えられるために二次性の繼發破壊を起し、繼發破壊は數次にわたつて發生し、夫々の繼發破壊に修復現象を随伴し、かくて破壊と修復とは複雑に交錯錯綜

しつづ徐々に骨を変形に導くに至るものである事を明らかにし、その経路を次の形式を以て示した。

(一次破壊)——(一次再生)——(二次破壊)——(二次再生)

次で著者は此の知見から出発して Osgood-Schlatter の報告した脛骨結節の疾患も、Köhler の報告した舟状骨疾患も、Legs Calvé-Perthes の報告した股関節疾患も、Kienböck の報告した月骨疾患も、Köhler の報告した膝骨疾患も、所謂 Osteochondritis dissecans と同じく始め左ほど重篤でない骨組織の断裂に始まり、その修復が未だ完成しないうちに機械的影響が加えられるために数次の継発破壊が発生し、破壊の各々にも修復機転が随伴するために或時期に組織像には破壊と再生との錯綜した複雑な様相を呈するが、個体の置かれる環境の條件によつて大なり小なり変形を貽して或は貽す事なくして修復を完了する一連の特異な再生現象によつて惹き起される骨変形と解される次第を、個々の疾患について詳述した。

本研究による成果は人体運動器疾患の懸案の闡明に貢献したのみでなく、獣医学者の間に一二五〇年 Jordanus Rufus の報告して以来何世紀かにわたつて大きな疑問として論議されていた馬の飛節内腫(Spat Spatt)と称する疾患の本態究明の端緒となつた。

即著者は成因全く不明であつた約二〇の近似せる骨疾患につき幾多の困難に打勝ち約二五年に亘り臨床医学的、病理解剖学的並に実験医学的に研究の歩を進め遂に其本態が各何れも同一転帰によつて発病する順序を明にし更に其成果は獣医学的方面にも応用せられ其発表せる論策は五一に及び中二八は相統いて独逸代表的外科学雑誌に掲載せられたるため其研究は広く内外の承認せらるる処となつた。